

流れ変わるかもしれん

原発と

五年前の二〇一二年七月一日、ふだん静かなおおい町の大島は太鼓の音や怒声に覆われていた。

北側に関西電力大飯原発、南側の山際に集落が細く広がる小さな半島。原発が再稼働するその日、全国から押し寄せた三百人ほどが道路を封鎖し、警官ともみあった。

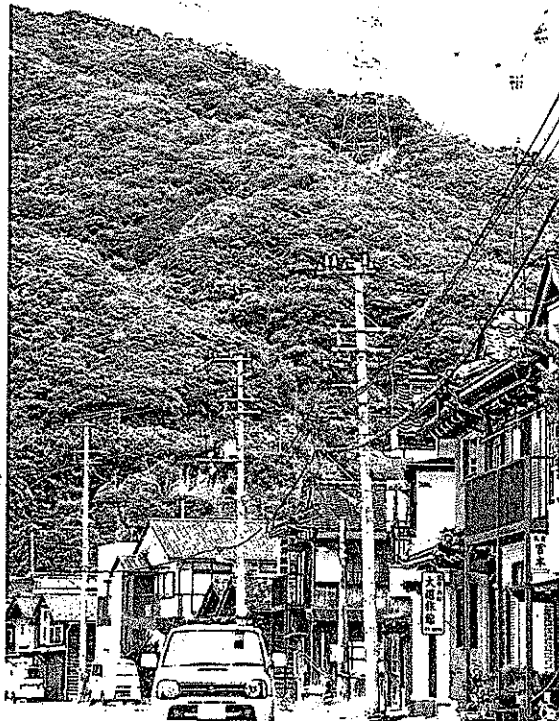
二日前には金曜デモがピークを迎え、東京・官邸前などで二十万人（主催者発表）が「再稼働反対」と声をからしたばかり。「なんか、わちゃわちゃやなあ……」。大島で民宿を営む森下弘治さん（60）は、脱原発の世論の火が燃え移った様子を、言葉にできない複雑な思いで眺めていた。

原発の是非を巡っては大抵、電気を大量に使用する都市ではなく、事故の際に最も被害が出る地元が「賛成」に回る。交付金や固定資産税で潤うし、雇用も生まれる。定期検査にやってくる作業員らが落とすカネも大きい。

大飯再稼働の日も、反対派へ向ける地元の目は総じて冷やかかなものだった。よく言われる「都市」対「地元」、「安全」対「経済」という構図が、こころも繰り返された形だが、「どっちも命の問題や」と森下さんは話す。

大島で原発の建設が始まったのは森下さんが高校生ごろ。半島とはいえず、道がつながっておらず、海を隔てた高校まで毎日、船で通い、冬は下宿した。原発建設で道路ができ、対岸へ一年中、にぎわった。原発は大島に「人並み」の生活

④ 静かな島



大飯原発から1*ほどの大島の集落。山には関西方面へ延びる巨大な送電鉄塔がそびえる。おおい町で

大飯再稼働と地元福島第一原発事故後の再稼働は立地自治体の同意が前提。2012年の大飯原発再稼働では、国の要請をお受け6月に県知事とおおい町長が同意した。雇用や財政で原発に依存する地元自治体の多くが再稼働に理解を示すが、住民から安全への懸念が漏れ、高浜町の音海地区は昨年、高浜原発1、2号機の40年超運転に反対する意見書を出した。

きる糧をくれたという。が、その思いは福島第一原発事故で揺らぐ。

大飯原発の再稼働まで一カ月を切ったころ、ふと思

い立ち福島県飯館村を訪ねた。故郷と似た山すその集落に人は誰もいない。原発に暮らしを奪われた現実に「ぞっとした」。

金曜デモが盛り上がる官邸近くにも足を運んだ。大勢の人たちが「命を守れ」

と叫んでいる。参加者と話すつもりが、誰にも声をかけられなかった。

大飯原発はいったん動いたが結局、一年余りで停止した。かれこれ二年以上、作業員によるにぎわいは遠のいたまま。関電は今年秋以降の再・再稼働を計画しているが、客が増える定期検査まで、さらに一年はかかる。あきらめて休業した民宿仲間もいるし、海水浴客の呼び込みに懸命な仲間もいる。「もうあてにできなくて声は多い。いまは半分以上くらいが再稼働に反対なんどちゃうか」

五年前の脱原発の火はくすぶっているように見えるが表立って「反対」の声は聞こえず大島は静かなままだ。「再稼働は世の流れ。も

の言えは唇寒しやから」。森下さん自身、笑ってこまかしてきた。ただ、先日「こころも思った。風向きが変われば、変わるかもしれんなあ」。再稼働に前向きな自民党が惨敗を喫した東京都議選のニュースがテレビで流れていた。